

東日本大震災で被災した気仙沼市の被害状況と支援活動に関する報告

1 気仙沼市への職員派遣の目的と特徴

- 目的
 - ・被災し行政機能が回復していない市町での支援ニーズを把握する
 - ・阪神・淡路大震災の経験を生かす
- 特徴
 - ・関西広域連合としてのカウンターパートナー方式の支援
 - ・直接市町の現場に支援本部を置く
 - ・各種分野の専門職員の構成による派遣隊

2 被災前の気仙沼市

- 位置：宮城県の最北東部
- 人口：74,247 人
- 産業：フカヒレ、サンマ、カツオなどの水産業、水産加工業が主体

3 東日本大震災と阪神・淡路大震災の被害の様相の違い

- 被害の大きさの違い
- 津波による被害⇔強い揺れによる被害
- 東北の広い範囲で発生⇔兵庫県の神戸・阪神・淡路の限られた範囲で発生
- 原子力発電所の被害が同時に発生

4 現地支援本部（気仙沼隊）の活動内容

- 先遣隊の役割・活動内容
 - ・本隊の生活、活動に必要なものの調達
 - ・宮城県庁での市町の状況等の情報収集
 - ・現地支援本部の事務所の確保
 - ・本隊の宿泊所の確保
 - ・本隊の活動の進め方についての気仙沼市との調整

○ 本隊の活動

- ・ 本隊職員の専門分野と人数
- ・ 毎日のスケジュールと活動の進め方

5 活動から見てきた気仙沼市の復旧初期段階の課題（行政職員の間から見た課題）

- （課題1） 多くの避難所、避難者に対して市役所の機能が十分に回復しておらず、被災者の支援ニーズが市で十分に把握できていない。
- （課題2） 気仙沼市職員の1/5が避難所運営にあたっており、市の復旧・復興業務に携われない。
- （課題3） 避難所以外の在宅医療・福祉のニーズがあるにもかかわらず、対応できない。
- （課題4） 要支援者が多くの避難所に点在しているため、効率的、効果的なケアができない。
- （課題5） 被災児童に対する適切な心のケアに取り組む必要がある。
- （課題6） 災害ボランティアセンターの立ち上げに時間を要した。

6 災害時の県の役割

- 災害対応の基本が市町である中での県の役割
- 阪神・淡路大震災での兵庫県の対応